



茨南だより

察知
3 S 誠意
スピード感

NO. 8 2022. 12. 1

第74回人権週間

県南教育事務所長
小松崎 龍太郎

昭和23年12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。国際連合は、「世界人権宣言」の採択を記念して12月10日を「人権デー（Human Rights Day）」と定めています。

日本でも12月4日から12月10日までの一週間を「人権週間」として、毎年、各種啓発活動等を実施し、人権尊重思想の普及高揚を呼びかけています。今年度の人権啓発キャッチコピーは、「「誰か」のことじゃない。」です。

最近、茨城県内では「言葉」や「対応」が原因となるハラスメント等の問題が発生しています。日ごろの何気ない言葉や対応が、相手の気持ちを傷つけたり、不快な気持ちにさせたりしていることはないでしょうか。人は、「言葉で傷つき、言葉で癒やされる」といわれています。人権週間を機会として、改めて「言葉の大切さ」や「相手のとらえ方」等を学校・家庭・職場で考えていただくと幸いです。

(茨城県教育研究会人権教育部作成の「こんな学校でありたいⅢ・Ⅳ」や、人権教育指導資料「みんなえがお」の再確認・再活用をお願いいたします。教育研究会HPや教育情報NWからダウンロードできます。)

総務課

期末勤勉手当について



12月期の期末勤勉手当が12月9日に支給されます。職員であった期間や休暇取得、勤務成績等により支給額が変わりますので、不明な点は事務職員に確認してみましょう。

人事課

★信頼され 笑顔あふれる学校づくりのために★



◆令和5年度定期人事異動◆

11月16日(水)県南市町村立学校長会議において、令和5年度の定期人事異動説明会を行いました。各校におかれましては方針や事務取扱要領等の周知がなされ、人事面談・事務が行われているところと思います。今後は、正確な書類作成へのご協力をお願いいたします。

◆特色ある学校づくりのための公募型人事異動◆

公募型人事異動は、校長の教育理念や学校運営方針等を広く公表し、学校の特色づくりや課題解決に積極的に挑戦しようとする教員を公募するものです。県南教育事務所管内の公募校1校をお知らせいたします。

牛久市立牛久第一中学校(本橋和久 校長) 《実践内容》教科指導(音楽)の充実

※公募校のプレゼン動画が、教育情報ネットワークの「ポータルシステム>お知らせ」で配信されていますので是非ご覧ください。【12月9日(金)まで】

◆令和4年度優秀教職員の表彰状伝達式◆

11月21日(月)に県南教育事務所で、ティーチャー・オブ・ティーチャーズ(TOT)及び優秀教職員の先生方3名の表彰状伝達式を行いました。

TOT : 鈴木はる代教諭【つ・沼崎小】

優秀教職員: 神社裕子教諭【取・戸頭小】、小野静香教諭【阿・竹来中】

【後列左から】木村校長(戸頭小)、小松崎県南教育事務所長、江尻校長(沼崎小)、山下校長(竹来中)

【前列左から】神社教諭(戸頭小)、鈴木教諭(沼崎小)、小野教諭(竹来中)



学校教育課

初任者研修講座特別支援学校体験研修講座

特別支援教育への理解を深めるとともに指導力の一層の向上を図ることを目的に「初任者研修講座特別支援学校体験研修講座」を実施しました。初任者の先生方は、土浦、石岡、美浦、伊奈特別支援学校で授業参観や体験研修を行いました。一人一人のニーズに応じた教育実践の様子を目の当たりにし、「教育の原点」を感じたことと思います。これらの貴重な体験を通して、子供の気持ちに寄り添った「指導力のある教師」として着実に成長してくれることを願います。



《研究主題》 自らの歯と口の健康に気付き、考え、実践できる児童の育成

研究で目指す児童の姿

- 歯と口の健康について正しい知識を身に付けている児童
- 主体的に生活を見直し、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童
- 自分の健康課題に気付き、進んで解決しようとする児童

研究の柱

- 児童が「そうか! 分かった!」「もっと知りたい! 調べてみよう!」「やってみよう!」と思える授業づくり(学級活動・体育科)
- 家庭・地域との連携(親子で考えるかみかみメニュー、歯科健康相談など)
- 校内環境の整備(「みがき残しハザードマップ」「すこやか情報局」の設置など)
- 学校歯科医・専門性をもつG Tとの連携(校内研修、臨時歯科検診など)
- 日常の児童の活動(「いいハ〜集会」の開催、歯に関する本や紙芝居の読み聞かせなど)



公開授業等の様子



3年生の授業の様子

全体会の様子



寺原小の取組はこちらから

《参加者からの声の一部》

- 第3学年の授業を参観させていただきました。歯に付着した食べかすを比べるために、実際にみかんやシュークリームをナイフで切っていたのがとても分かりやすかったです。また、子供たちが自分の経験を振り返りながらよく考えている姿が印象的でした(利根町小学校教諭)
- オンライン開催でしたが、カメラの切り替えや映像の映し方がスムーズで、とても見やすかったです。研究主任の研究発表も簡潔に分かりやすく構成された動画で、とても勉強になりました。参集型でしたら参加できなかったと思いますが、オンラインで参加でき、とてもよかったです。(鹿嶋市小学校養護教諭)



稲敷市教育委員会

一人一人の教育的ニーズに対応する教育の充実

稲敷市特別支援教育支援員・学校教育支援員配置事業

本市では幼児・児童生徒の教育的ニーズに応じた適切な指導ができるよう、市内の全5園、全12小中学校に支援員を配置しています。◆特別支援教育支援員：45名配置 ◆学校教育支援員：13名配置

支援体制の充実を図るための取組

1 稲敷市特別支援教育支援員研修会の開催(4月、8月)

- ねらい：幼児、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援の在り方について考え、特別支援教育の充実を目指す。
- 内容：勤務や役割についての説明・確認、支援員の専門性や支援力を向上させるための研修を実施。研修では美浦特別支援学校 地域支援センター長 石川裕香 先生を講師に迎え講話をいただいた後で、分科会として座談会形式の情報交換会を行った。地域支援センター職員5名がアドバイザーとして各グループに入り、支援員との熱心なやり取りが見られた。

2 担当指導主事による学校訪問の実施(5月、3月)

- ねらい：園、小中学校を訪問し、支援員の活用状況及び各支援員の活動状況を把握する。
- 内容：活用計画書をもとに活用状況について管理職との話し合いの後、支援員の活動状況の把握のために保育・授業参観を実施している。参観後は支援員個別に支援活動への指導助言や要望等の聞き取りを行い、支援の改善・充実につなげている。

3 「小・中学校における特別支援学級の教育課程編成ガイド(改訂第3版)」についての説明会実施(7/14)

- ねらい：適切な就学・入級支援や教育支援委員会の円滑な運営のため、改訂内容の共通理解・情報共有を行う。
- 内容：主たる担当者(教頭、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任)を対象に実施。夏季休業中の三者面談前に、改訂事項『特別支援学級を指導の場とする授業』を受ける時数や通級による指導』について、今後支援を進める上での留意点、保護者への説明の際の留意点を共有することで、担当者の不安を払拭することができた。

稲敷
いなのすけ



利根町教育委員会



利根町地域クラブ活動「すぼかるとね」

本町は、令和4年度地域運動部活動推進事業の指定を受け、利根中学校において休日の運動部活動の段階的な地域移行に関する実践研究を進めています。本町の地域移行パターンは行政主導・大学連携型で、中学校・大学・地域が一体となったクラブ活動の運営を目指しています。本町の地域クラブ活動名を「すぼかるとね」とし、「すぼ」は「スポーツ」、「かる」は「カルチャー」、「とね」は「利根町」を表現しました。

利根中学校には野球、サッカー、男女ソフトテニス、男女バスケットボール、女子バレーボール、バドミントン、卓球、剣道の10運動部活動があり、10月より全ての運動部活動が月2回~3回程度の実施回数で地域クラブ活動に移行しました。11月1日現在で運動部所属生徒158名中127名が参加しています。

地域指導者として兼職兼業職員10名(町内小学校教頭1名含む)、保護者2名、前年度職員1名、ウェルネススポーツ大学生70名が参加しています。大学生は授業の一環として参加しており、参加することが単位取得につながります。大学生の参加は地域にとっても、大学にとってもWIN-WINの関係となっています。

地域クラブ活動は学校の働き方改革を踏まえた部活動改革に位置付けられています。「すぼかるとね」が始まった10月と5月の利根中職員の超過在校時間を比較すると、平均26時間29分の減となりました。地域クラブ活動の取組は、休日の指導を希望する職員、指導を望まない職員の両方にとって働き方への意識・行動改革への一助となっています。

来年度は今年度の実践を基に、持続可能な地域クラブ活動と学校の働き方改革の両立の実現に向けてさらなる推進を図っていきたいと考えております。

